

授業改善推進プラン〈国語〉

I 国語科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ◇「読むこと」では、段落と段落の繋がりを考えながら読むことや、事実と感想・意見などの関係を読み取ることに課題があり、指導してきた。引き続き、読む力の向上を図る取り組みを進める。
- ◇「書くこと」は、意欲に課題があり、学年に応じて日記や作文、「書くて楽しいね」を活用した指導を行った。継続して、書く活動を積み重ねることで技能の向上を図る。
- ◇話し合いの役割を設定し、聞くべき内容を整理することと、話の中心は何かを判別するために、書くことや読むことの活動とも繋げながら指導する。
- ◇「言語事項」(国語辞典・漢字辞典の使い方)については、日常的に活用し、学校全体で指導の充実を図っていく必要がある。

II 国語科における学習効果測定結果の分析

第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none">◇教科全体の平均正答率は、目標値、全国正答率と比べても大きく上回っているので、良好といえる。◇ほぼ全ての領域で、目標値や区の平均正答率を上回っているが、「話し合いの内容を聞き取る」の項目では、全国正答率より低いため、改善の必要がある。	<ul style="list-style-type: none">◇教科全体の平均正答率は、目標値、全国正答率と比べても上回っており良好といえる。◇領域別に見ても全ての領域で目標値や区の平均正答率を上回っているが、「漢字を書く」の項目では区の平均正答率と同等、もしくは低いため、課題である。	<ul style="list-style-type: none">◇教科全体の平均正答率は、目標値を上回っているので良好である。◇目標値や区の平均正答率を上回っているが、「説明文の読み取り」における『段落の読み取り』や『他の例にあてはめる』の項目が他項目より低いため、課題である。

III 結果に基づいた授業改善のポイント

- ◇「言語事項」については、国語辞典・漢字辞典を日常的に活用できるような環境や時間を確保できるよう、学校全体で環境を整え、国語以外でも日常的に活用していく。
- ◇言語事項の定着を充実させるために、短作文作りと既習漢字の活用を継続的に行っていく。校内や教室内の掲示物等の言語環境を整え、随時新しいものに取り換えていく。
- ◇漢字についての学習では、一度覚えた漢字を日々活用したり、振り返ってテストをしたりすることで、漢字を覚える意識を児童にもたせるようにする。
- ◇書く能力をさらに伸ばすために、伝えたいことの中になる内容に対して、原因や理由、事例を挙げて書く指導の充実を図る。また、日記や生活作文など、さまざまな内容で書く学習活動を設定する。
- ◇目的や相手を意識しながら話す内容を考えられるように指導していく。合わせて、低学年では聞いたことを口頭で伝えること、高学年では効果的なメモがとれるようにすることを指導していく。
- ◇朝読書、読書の時間、読み聞かせ活動、休み時間の図書への貸し出しなど、本に触れる時間を十分に確保し、読書学習司書とも連携しながら、読書活動の充実を図っていく。また、学年・学級での差が大きいため、読書週間などを活用し、学校全体に呼びかけをしていく。

IV 国語科の授業改善策

【話す・聞く能力】

(低学年)

- 相手を見て、最後までしっかり聞こうとする姿勢を育てる。
- 伝えたい事柄や場や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫することを指導していく。
- 朝の会や帰りの会で、順序や話型に気を付けたスピーチ活動を行うことで、話し方を工夫できるようにする。
また、話し方や聞き方の心得を掲示し、授業の中で取り入れ、意識させていく。

(中学年)

- 言葉の抑揚、強弱など効果的な発表方法を指導し、音読させる。
- 考えの共通点や相違点を整理し、話題に沿って話し合えるよう、話し合いの中で司会や提案の役割などを経験する機会を設ける。
- 日直によるスピーチではテーマを決めたり、長期休みや行事後など話しやすい場を設定したりして実践の機会を増やしていく。
- 耳で聴きとった情報を整理し、認知能力を高めるゲームなどを行う。

(高学年)

- 主体的に話したり、聞いたりできるように「オープクエッション」による質問力の強化を図る。どの児童も発言しやすい環境を作るために、発問を工夫して分かりやすい授業展開を意識する。
- 発表や討論会の場面では、自分の考えていることをどの立場で発言するのかを考えながら相手に伝えさせる。また、発表までの計画を立てる時間を設け、計画的に自分の考えをまとめ、話し合いができる環境を整える。

【書く能力】

(低学年)

- 主語、述語に気を付けて、内容の大体が分かるように文章を書けるようにする。
- 書いた文章の読み返しをさせ、句読点の使い方や促音や濁音などの使い方を身に付けさせていく。
- 組み立てを考えて書かせる。書きたいことをメモさせてから、「はじめ」「中」「終わり」それぞれに分けて書かせる。

(中学年)

- 詩や物語を書く活動や、短文作りなどの活動を通して、情報や自分の思いを言葉や文に表すことに慣れさせていく。
- 国語辞典を手元に置いてすぐ活用できるようにし、語彙力を増やすことで、書く力を高める。

(高学年)

- 日常的に日記・短作文や感想など、自分の考えを文章で表現する機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らしていく。また、文章構成や表現が工夫された作品は、他の児童にも積極的に紹介して共有していく。
- 事実と考えを区別したり、文章のまとまりを考えたりしながら書くよう指導を続けていく。

【読む能力】

(低学年)

- 音読の際、文のまとまりごとでとらえられるよう、日々の家庭学習に音読練習を取り入れる。
- 説明文を読むときは、順序やわけが分かるように、ICTを活用しながら気付かせるようにする。

(中学年)

- 教科書の叙述に基づき、登場人物の気持ちや出来事の変化を読み取らせる。
- 文章構成や段落相互の関係(話題提示と答えの関係、原因と結果の関係)に気を付けながら、説明文等の読み取りができるようにさせる。

(高学年)

- 物語文では情景描写や登場人物の心情変化に着目して、本文の言葉から考えることができるように指導する。
- 説明文の読み取りでは、段落構成図を作成したり、事例の意味や順序を考えたりする時間を設け、段落ごとの内容を短い文章でまとめられる力を養う。
- 要点や要旨を常に意識し、キーワードや重要語句には線を引かせながら内容をしっかりとらえさせる。

【言語についての知識・理解・技能】

(低学年)

- 国語の学習だけでなく、日常生活でも言葉を意識させ、語彙力を豊かにする活動を取り入れる。
- 平仮名やカタカナ、漢字の指導を丁寧に行い、ミニテストなどを実施して、定着を図る。
- 句読点の打ち方や、かぎ(「 」)の使い方を作文や日記等の指導を通して、繰り返し練習させ身に付けさせる。

(中学年)

- 図書の時間は読み聞かせを行ったり、国語の授業だけでなく他教科でも意味が分からない言葉があれば国語辞典で調べたりして、語彙力を増やしていく。
- 漢字を文章の中で適切に使えるように、日記や作文に既習の漢字を使わせ、漢字辞典を身近に置き活用する。また、家庭学習で漢字の課題を取り入れ、漢字の定着を図る。

(高学年)

- 高学年は難しい言葉が増える一方で、辞書の活用が課題である。中学年同様、どのクラスも辞書を手元に置いてすぐ活用できるようにする。
- 家庭学習で漢字の課題を取り入れる。また、漢字のテストを定期的に行う。また下学年で学習した漢字も繰り返し練習させ、定着を図る。辞書を使った学習を定期的に行い、漢字の成り立ちや意味理解を深める。